

当院における左房容積係数についての比較検討

◎浦田 有美¹⁾、笹山 結雅¹⁾、中澤 はるな¹⁾、清水 麻里子¹⁾、中出 慧¹⁾、上野 剛志¹⁾、中川 幸恵¹⁾、
南部 重一¹⁾
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院¹⁾

【はじめに】左房計測は形態的指標でありながら心不全診療において重要であり、予後予測因子でもある。当院では、新機種導入により、3D 画像データから左房容積計測が可能となった。そこで、現在報告を行っている B モード法の計測値 (LAD) を用いて左房容積を算出した値と、3D 画像から得られた左房容積係数 (LAVI) との比較を行った。

【対象】2023 年 5 月 8 日から 2023 年 6 月 14 日までに当院で心臓超音波検査を施行した 47 名 (平均 69.3 歳、男性 30 名、女性 17 名)

【方法】機器は PHILIPS 社製 EPIQ Elite 超音波診断装置、XMATRIX X5-1c を使用した。胸骨左縁左室長軸断面の左房径、心尖部四腔断面の左房の縦横径をそれぞれ測定し、prolate_ellipsoid 法で左房容積を算出した。算出した値を体表面積で除したものと 3D 画像データから算出した左房容積係数 (LAVI) を比較した。

【結果】B モード法の計測値 (LAD) から算出した値と左房容積係数 (LAVI) の相関性は $R=0.941$ と相関が認められた。また、B モード法の計測値 (LAD) から算出した値と左房容積係数 (LAVI) を比較すると、左房容積係数 (LAVI) の方がやや高い値となった。さらに、左房径が大きくなるとデータにばらつきが見られた。

【まとめ】新機種導入により、3D 画像データ構築が簡便に行えるようになった。当院では現在、左房計測値は LAD のみ行っているが、今後、左房容積係数 (LAVI) の臨床への導入を検討していきたい。また、3D 画像データ構築ができない機種においても、LAD から左房容積を算出することで左房容積係数 (LAVI) の代用が可能と考えられた。

連絡先：臨床検査部 生理検査室 0766-21-3930 (内線 3450)